

# WCS用コーン拡大

## 三重・JA伊勢 栽培2年目7ヘクタールに



刈り取りと仮ラップ作業を進める関係者

【三重・伊勢】JA伊勢は、担い手生産者と連携して飼料用トウモロコシ（発酵粗飼料）WCS用トウモロコシの栽培に取り組んでいる。今年で2年目で、取り組み延べ面積を約7ヘクタールに拡大した。7月29日には、春まき品種「スノーデント1255T」の刈り取り作業と、自走式ベールラップによる仮ラップ作業などを行った。

WCSは、実のつく作物を茎・葉・穂（子実）全体を同時に切断しサイレージ化したもの。国内産のWCS用トウモロコシの需要が高まっている状況を踏まえ、同JAは2023年、管内の担い手生産者とWCS用トウモロコシの試験栽培を始めた。

初年度の取り組み面積は約1・5ヘクタール

た。管内の酪農家が利用し、県中央農業改良普及センターと連携して取り組む。今年に栽培するの

は、デントコーン「スノーデント1255T」で、春まき（4月）を約4・2ヘクタール、夏まき（7月）を約2・6ヘクタールそれぞれ栽培する。生育は、昨年よりも良く、収量も多くなる見込みだ。

同JAの担当者は「昨年は試験的に栽培を行ったが、品質も良く、酪農家からも喜んでもらえた」と聞く。栽培実績と経験を積み上げ、産地振興に取り組みでいきたいと話した。次年度以降は、農地の条件や気候、担い手の栽培体系に合った品種と栽培時期を検証していく。